

尾道市 平和映画鑑賞会

～「平和と命の尊さ」について

考えてみませんか?～

日時 令和8年

8月1日(土) 13:30～12:30 開場
(上映時間2時間9分)

会場 しまなみ交流館 ホール

定員 690名

入場無料

申込不要

日本語字幕付き上映



のん 細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞 小野大輔 潘めぐみ 岩井七世 牛山茂 新谷真弓 澁谷天外(特別出演)

原作：こうの史代『この世界の片隅に』（コアミックス刊）／音楽：コトリンゴ／監督・脚本：片渕須直
企画：丸山正雄／監督補：画面構成：浦谷千恵／キャラクターデザイン・作画監督：松原秀典／美術監督：林孝輔

問い合わせ：尾道市人権男女共同参画課 ☎(0848)37-2631 主催：尾道市



「この映画が見たい」の声が生んだ 100年先に伝えたい珠玉のアニメーション

18歳のすすさんに、突然縁談がもちあがる。良いも悪いも決められないまま話は進み、1944(昭和19)年2月、すすさんは呉へとお嫁にやって来る。呉はそのころ日本海軍の一大拠点で、軍港の街として栄え、世界最大の戦艦と謳われた「大和」も呉を母港としていた。見知らぬ土地で、海軍勤務の文官・北條周作の妻となったすすさんの日々が始まった。

夫の両親は優しく、義姉の径子は厳しく、その娘の晴美はおっとりしてかわいらしい。隣保班の知多さん、刈谷さん、堂本さんも個性的だ。配給物資がだんだん減っていく中でも、すすさんは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、毎日のくらしを積み重ねていく。



ある時、道に迷い遊郭に迷い込んだすすさんは、遊女のリンと出会う。

またある時は、重巡洋艦「青葉」の水兵となった小学校の同級生・水原哲が現れ、すすさんも夫の周作も複雑な想いを抱える。



1945(昭和20)年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの数の艦載機による空襲にさらされ、すすさんが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日続く。そして、昭和20年の夏がやってくる――。

〈作品について〉

主人公すすさんを演じるのは女優・のん。

片淵監督が「ほかには考えられない」と絶賛したその声でやさしく、柔らかくすすさんに息を吹き込みました。

すすさんを囲むキャラクターには細谷佳正、稲葉菜月、尾身美詞、小野大輔、潘めぐみ、岩井七世、牛山茂、新谷真弓ら実力派が集結。松竹新喜劇の座長・澁谷天外も特別出演しています。

原作はこの史代。

第13回メディア芸術祭マンガ部門優秀賞ほか各メディアのランキングでも第1位を獲得。

「この映画が見たい」の声が生んだ、クラウドファンディングで3374名のサポーターから実に約3900万円の制作資金を集めた本作。

日本全国からの「この映画が見たい」という声に支えられ完成した『この世界の片隅に』は、長く、深く、多くの人の心に火を灯し続けることでしょう。100年先にも愛され続ける映画が、ここに誕生しました。